

2021年 年頭にあたって

2021.01

立命館大学技術士会
会長 土屋 光弘

新年あけましておめでとうございます。

日本海側に大雪をもたらした年末寒波も去り、年明けからは穏やかな日々が続いています。2021年が立命館大学技術士会の会員のみなさまにとって、健康で幸せな年となりますよう、心から祈念申し上げます。

しかし、昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、仕事にもオフにも様々な影響が出て、なかなか終息が見えない状況となっています。当技術士会の活動も制約され、技術士受験講座はメールのやり取りで対応、大学との連携授業は Web 形式、総会と交流懇親会も規模を縮小し、総会時の講演会は中止する形で行いました。

一方で、この情勢に対応したりリモート形式の仕事の仕方が根付いてきました。

これまでからコンピュータ技術は年々進歩してきたのですが、その技術は業務スピードを上げること、仕事量を増やすことに使われてきました。それが今回、仕事のやり方や時短・効率化に使われるようになったのは大きな進化です。

10 数年前に推奨された SOHO は定着せずに終わりましたが今回、在宅勤務や Web 会議が定着し、ある意味で働き方改革が進んで行くのではないかと思います。

当技術士会の幹事会も、1月から Web 会議で試行します。これまでは、遠方であったり、子育てで参加いただけなかった幹事にも参加し易い環境で、活発な議論が出来ればと期待しております。

また、少しずつ熟成させてきた大学との連携もさらに進みつつあります。インフラマテリアル研究室で研究指導されている大森相談役に調整いただき、来年度から「JABEE プログラム対応の新規科目」授業の一部を当技術士会会員で担うこととなりそうです。これが益々大学との交流を進めていく大きなきっかけとなることを期待しています。

このような中、技術士会設立 10 年をもって会員名簿を発刊することとなりました。

個人情報の取り扱いには十分留意していただく必要がありますが、会員間の活発な情報交流に役立つことを願っています。今年のテーマは「会員相互のコミュニケーション」、本年もどうぞよろしく願いいたします。